

「大どんぐり展」展示、イベント及び広報における工夫

富澤まり

特別企画展「大どんぐり展」(平成 21 年(2009 年) 9 月 19 日(土)～12 月 24 日(木))では、市民が自然環境を見直す機会が増えていることや、自然との共生に向けた地域づくりが求められていることを踏まえ、私たちの生活を支えてきた里山そしてその中心となるどんぐりのなる木を見直し、市民の環境に対する理解を深め、関心を高めていただくことを目的とし展示を行った。本展には、各方面から協力をいただいた。たくさんの協力者が現れることで、展示会自体が多方面に知られることとなり、様々な層の来園を期待することができた。

1. 展示での工夫

この展示では、模型を用いた「ハンズオン」のほか、「実物展示」に力を入れた。

(1) 「ハンズオン」

①巨大どんぐり模型(写真 1)



写真 1. 巨大どんぐり模型

高さ 2.3 m の巨大どんぐり模型を委託で製作した。これには、高さ 1 m のトンネルを作り、模型の中をくぐり抜けることができるようにした。また、のぞき穴を左右に開け、どんぐり内部から外を見ることができるようにした。同時に、120cm 用と 150cm 用のシギゾウムシの幼虫に変身できる着ぐるみ(製作 植物公園ガイドボランティアの会)を用意した。どんぐりの中に入っている幼虫にとってどんぐりがいかに大きいかを、子どもが実感できるようにした。

②クラフト制作

どんぐりを使ったクラフトを制作できるよう、どんぐりこまやどんぐりトトロ人形、ドングリ笛などの作り方の説明と、自由に使用できるようにどんぐり(アベマキなど)、ペイントマーカー、サインペンを用意した。展示の最後のコーナーに置き、観覧後自由に制作、できたものは持ち帰ってもらった。

(2) 「実物展示」

①どんぐりの芽生え

どんぐりから芽が出る様子を観察できるように、実物を用意した。芽生えを透明容器の水にさしたものも用意し、下には根、上には芽がでていることを観察してもらった。

②巨大どんぐりの展示(写真 2)

沖縄大学人文学部 盛口満准教授提供のボルネオの巨大どんぐり(実物、直径 5.5cm)など、外国産の珍しいどんぐりを展示した。実際の植物による驚きを提供した。



写真 2. ボルネオの巨大どんぐり

③その他、大量のどんぐりを使った宝島(クラフト、IWAD 環境福祉専門学校提供)やブナ科樹木の樹液を吸いにくる虫や葉を食べにくる虫の標本 21 種 36 点(広島市森林公園こんちゅう館提供)、ナラ枯れの原因カシノナガキクイムシ標本(日本樹木医会広島県支部提供※)、ブナ科樹木の材を使った小箱 7 種(三浦孝治氏提供)、ブナ科巨樹の原画(加納千里子氏提供)、ブナ科巨樹写真(同※)などを展示した。

2. 関連イベントでの工夫

展示会をより深く理解するために、野山のどんぐりの木を観察する探訪会(写真 3)、専門家によるどんぐりの解説と園内観察などを行うワークショップ、職員による展示解説 2 回などを行った。



写真 3. どんぐり探訪会

「大どんぐり展」では、展示内容から対象を子どもと考え、園内の芝生広場で「落ち葉のプール（写真 4）」を日時限定で開催した。約 16 m²の大きさのプール（ダンボール箱をつないで作成）に、落ち葉を 120 袋分（70 リットルのビニール袋で）用意した。1 回の開催で、落ち葉 70～80 袋を使用した。踏んだりすることで、かさが減るたびに順次落ち葉を足していった。4 回の開催で大人も含め約 250 人の参加があり、参加者は落ち葉で山を作って潜ったり、放り投げたりして感触を楽しんでいた。これは当園としては初めての試みで、子どもたちに生の植物の手触り、においなど五感を活かして植物を感じてもらい、自然に触れる楽しさを知ってもらった。はじめは遠慮していた保護者も、しばらくすると子どもと一緒に、葉の感触を楽しんでいた。



写真 4. 落ち葉のプール

3. 広報の工夫

チラシ（写真 5）を作成し関心が強いと思われる層（「大どんぐり展」では、保育園・幼稚園・小学校等）を中心に配布した。また、マスコミに取材依頼し、テレビ、新聞等で報道もしくは告知していた。

さらに、公式ホームページ内に特設ページを設けたり、当園のメールマガジン「花めーる」で告知したり、展示やイベントについて周知した。これらにより、広範囲からの集客を見込むことができた。また、実際に園に足を運ぶことが不可能な遠方の方にも、展示内容をアピールすることが可能となった。今後は、展示により得られた知見等を追加することができると、展示会自体の資料収集効果、集客効果が向上するものと思われる。

4. 展示会の効果

展示期間中の来園者は 67,920 人で、実際にこの展示会を観覧したのは、そのうちの数割と思われる。企画展自体に興味を持ち、来園してくださった方も多かった。この展示会を目的に遠足を組んだ小学校が 1 校あった。関連イベントを含め小学校の先生が家族と勉強にきてくださっている様子もちらほらみられた。展示会場においた感想ノートには、「今日はシギゾウムシになりました」「シギゾウムシを体験するのがとてもたのしかったです。」「いろんなものをつくったからたのしかったです。」「どんぐりがいっぱいでしたのしかったです。」「リスがうらやましくなるくらい、どんぐりが好きになりました」などがあり、見学のみでなく展示内容を体験し、楽しんで学んでもらったことがうかがえた。



写真 5. 広報用チラシ